

ボールの特性レポート

BALL REPORT



ボール名	716C	投球者	徳江 和則	センター	平和島スターボウル
RG	2.510	△RG	0.057	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール	

テストボール：716C

フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 4 インチ

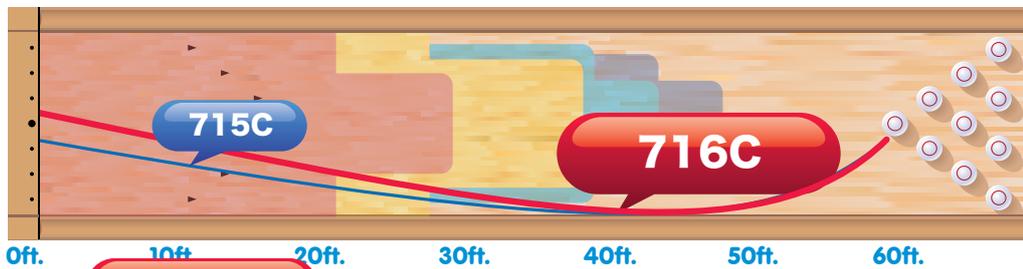
表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤

比較対照ボール：715C

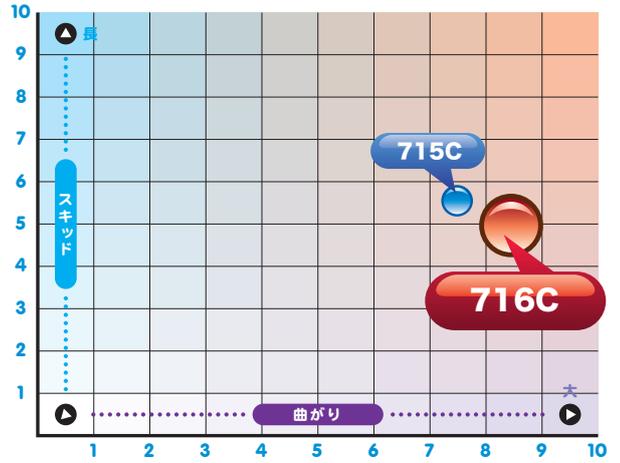
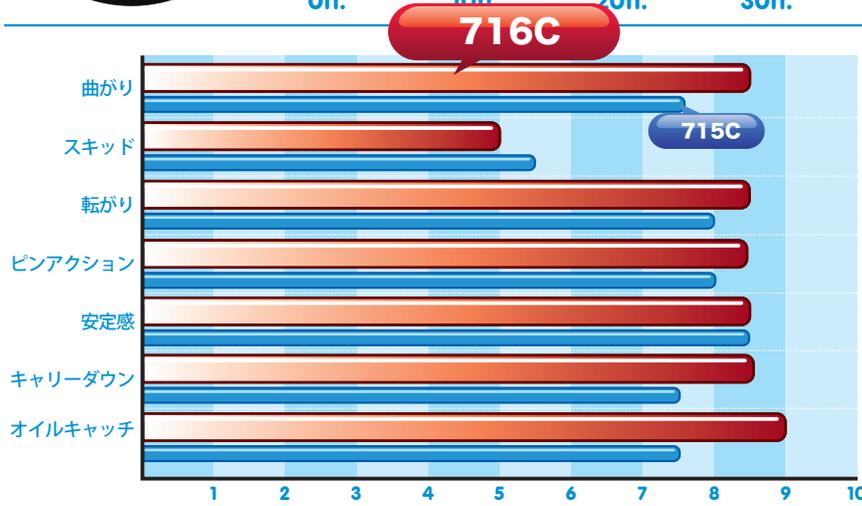
フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 4 インチ

表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤



- ヘビー
- ミディアム
- ライト
- バフ



ボールの評価

さらなる進化を求め、ナンバーシリーズ毎にコア形状を一新したトラック社。今回の716Cは”7”の領域で使用できる一番強いカバーストックを纏い、ポリッシュ状態で最大のリアクションを演出します。

驚いたのは綺麗にポリッシュされた見た目からは相反するキャッチ力を感じたこと。比較対象の715C、718Aよりキャッチ力は上回る強さを感じ、一番に違いを感じられるのはオイルを長く使いラインを取った時のキャッチの安定感でしょう。実際厚いオイルの中を3つを使い投球してみると、全く反応を示さない715Cに対し、716Cは明らかにキャッチし、フィニッシュする性能の差を見ることができます。715Cと716CでInt Diffが1つ違うだけでこれだけの性能の差が出るということは、コア及びカバーストックの差であり、技術革新とも言える進化でしょう。

今回トラック社はこの716Cに”C”(Control)になっていますが、私が投球したイメージではどちらからと言うと”A”(Anguler)に限りなく近い”C”タイプに感じ、ミッドエリアからの安定感は”C”でありながら最後に切れ込む、称するならば”AC”タイプに感じました。916Cで提唱された「Continuous Control」(曲りの持続性)とはまた違ったアグレッシブなCタイプでバックエンドのリアクションを特に重視された性能に仕上がっているように思えます。クリーンな走りの中に安定したキャッチ力とバックエンドモーションの鋭い反応を魅せる性能の類は、明確に「曲がる」というイメージを持ちやすいことと同時に、日本のマーケットで一番にニーズと評価が高い性能であるとも言えます。

表面に光沢のある、曇り系とはまた一味違う安定感のあるキャッチ感と反応の良いバックエンドリアクションはボウラーを震撼させる性能であり、多くのタイトルを手中に収める武器となることでしょう。

特記事項

光沢がありながら”7”シリーズとは思えないほどのオイル上での強さとバックエンドリアクションの強さを兼ね備えたボール。 ”C”シリーズで一番Angulerな性能を味わえることができます。